

近江の茶GAPの実践と定着に対する支援

甲賀農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

当課では、「近江の茶GAP」の実践・定着に向けて、平成21年から実践点検シートの試験記帳、各種研修会などの支援を行ってきました。その結果、45のチェック項目を有する実践点検シートや製造面・栽培面の統一ルールポスターが完成し、「近江の茶GAP」が本格的にスタートしました。

一方、GAPに対する理解度は徐々に高まっているものの、生産者や地域によって温度差があり、理解度や具体的な実践方法のレベルには大きな差がみられます。

そこで、「近江の茶GAP」の定着に向けて、甲賀地域のJA荒茶共同販売会出荷農家を対象に、GAPの実践に対する技術的な支援を行いました。

【普及活動の成果】

5月の新茶シーズンから製茶工場や茶園での巡回指導を行い、工場での清掃の徹底や異物混入防止、農薬・肥料の安全使用、作業安全などについて技術的に支援しました。

また、主産地である土山・信楽両地区において、実践点検シート記帳研修会を開催しました。研修会は、実践状況を振り返って改善方法を生産者自らが考えられるように、実践点検シートの項目について優良な事例や悪い事例を具体的に示しながら実際に記入してもらう形をとりました。また、記入されたシートはその場で提出されました。

その結果、より一層高い意識で様々な工夫に取り組む生産者が見られるようになりました。さらに、集荷先であるJAこうかにおいても意識が高まり、特に衛生管理の徹底、異物混入防止に向けての取り組みが活発になってきました。

これまで、「近江の茶GAP」の推進にあたっては、滋賀県茶業会議所をはじめとして、甲賀地域農業センターやJAこうかなど多くの関係機関が一体となった取り組みが進められてきました。その中で、それぞれの機関が十分に機能を発揮できるよう、当課はここまで舵取り役を果たしてきました。



実践点検シート記入研修会
(土山地区)



「近江の茶GAP」に
積極的に取り組む若手茶業者